

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 2 区分

【発行日】平成 21 年 10 月 1 日 (2009.10.1)

【公表番号】特表 2009-526266 (P2009-526266A)

【公表日】平成 21 年 7 月 16 日 (2009.7.16)

【年通号数】公開・登録公報 2009-028

【出願番号】特願 2008-554220 (P2008-554220)

【国際特許分類】

**G 0 2 B 6/44 (2006.01)**

【F I】

G 0 2 B 6/44 3 6 6

G 0 2 B 6/44 3 3 6

G 0 2 B 6/44 3 1 6

G 0 2 B 6/44 3 7 1

【手続補正書】

【提出日】平成 21 年 8 月 12 日 (2009.8.12)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

光ファイバケーブルであって、

少なくとも 1 本の光導波路と、

キャビティが設けられたケーブルジャケットであって、前記キャビティが主要表面を有し、前記少なくとも 1 本の光導波路が前記キャビティ内に少なくとも部分的に収納されているケーブルジャケットと、

前記ケーブルジャケットに取付けられ、前記キャビティの互いに反対側に設けられた少なくとも 2 本の抗張力体と、

第 1 のドラインサート及び第 2 のドラインサートを備え、

前記第 1 のドラインサート及び第 2 のドラインサートは、前記少なくとも 1 本の光導波路が前記第 1 のドラインサートと前記第 2 のドラインサートとの間に配置され前記少なくとも 1 本の光導波路を前記ケーブルジャケットに結合しするように、前記キャビティ内に収納され、

前記少なくとも 1 本の光導波路は少なくとも約 0.5 N/m の標準化された引抜き力を有し、

前記第 1 のドラインサートは、前記キャビティの前記主要表面と全体として整列した主要表面を有する、

ことを特徴とする光ファイバケーブル。

【請求項 2】

前記少なくとも 1 本の光導波路は、光ファイバリボンの一部分である、

請求項 1 記載の光ファイバケーブル。

【請求項 3】

前記少なくとも 1 本の光導波路は、約 0.2 % 以上のリボン余長を有する、

請求項 2 記載の光ファイバケーブル。

【請求項 4】

前記第 1 のドラインサートと前記第 2 のドラインサートは、総合非圧縮高さを有し

、前記総合非圧縮高さは、キャビティ高さ  $(CH)$  の約 40 % 以上である、  
請求項 1 記載の光ファイバケーブル。

【請求項 5】

抗張力体寸法  $(D)$  を有する前記少なくとも 2 本の抗張力体の 1 本を備え、前記キャビティは、キャビティ高さ  $(CH)$  を有し、前記キャビティ高さ  $(CH)$  は、前記抗張力体寸法  $(D)$  よりも大きい、  
請求項 1 記載の光ファイバケーブル。

【請求項 6】

前記キャビティは、略矩形であり、前記少なくとも 1 本の光導波路は、前記キャビティ内に収納される複数本の光ファイバリボンのうちの 1 本の光ファイバリボンの一部分である、請求項 1 記載の光ファイバケーブル。

【請求項 7】

前記光ファイバケーブルの小さい方の寸法  $(H)$  は、約 8 ミリメートル以下であり、前記光ファイバケーブルの大きい方の寸法  $(W)$  は、約 15 ミリメートル以下である、  
請求項 1 記載の光ファイバケーブル。

【請求項 8】

前記第 1 のドラインサート又は前記第 2 のドラインサートの一方は、圧縮性の層及び吸水膨張性層を有する、  
請求項 1 記載の光ファイバケーブル。

【請求項 9】

前記第 1 のドラインサートは、吸水膨張性層を有し、前記吸水膨張性層は、前記キャビティの方へ外方に向いている、  
請求項 1 記載の光ファイバケーブル。

【請求項 10】

前記少なくとも 1 本の光導波路は、前記第 1 のドラインサートの少なくとも一部分に接触している、  
請求項 1 記載の光ファイバケーブル。

【請求項 11】

光ファイバケーブルを製造する方法であって、  
少なくとも 1 本の光ファイバを繰り出すステップと、  
第 1 のドラインサートを繰り出すステップと、  
第 2 のドラインサートを繰り出すステップと、  
前記少なくとも 1 本の光ファイバを前記第 1 のドラインサートと前記第 2 のドラインサートとの間に位置決めし、それによりケーブルコアを形成するステップと、  
前記第 1 のドラインサート及び第 2 のドラインサートが前記少なくとも 1 本の光導波路を前記ケーブルジャケットに結合させるように、ケーブルジャケットを前記ケーブルコア周りにつけるステップと、を備え、  
前記少なくとも 1 本の光ファイバは少なくとも約 0.5 N/m の標準化された引抜き力を有する、  
ことを特徴とする方法。

【請求項 12】

少なくとも 1 本の抗張力体を用意するステップを更に有し、前記少なくとも 1 本の抗張力体を製造の一部分の間、弾性的に延伸し、それにより、張力を前記少なくとも 1 本の抗張力体から除いた後に前記ケーブル内の前記少なくとも 1 本の光ファイバについてファイバ余長をもたらす、  
請求項 11 記載の方法。

【請求項 13】

前記少なくとも 1 本の光ファイバは、光ファイバリボンの一部分であり、前記方法は、少なくとも 1 本の抗張力体を用意するステップを更に有し、前記少なくとも 1 本の抗張力体を製造の一部分の間、弾性的に延伸し、それにより、張力を前記少なくとも 1 本の抗張

力体から除いた後に前記ケーブル内の前記光ファイバリボンについてリボン余長をもたらず、

請求項 1 1 記載の方法。

【請求項 1 4】

複数本の光ファイバリボンを繰り出すステップを更に有し、前記少なくとも 1 本の光ファイバは、前記複数本の光ファイバリボンのうちの 1 本の一部である、

請求項 1 1 記載の方法。

【請求項 1 5】

光ファイバケーブルを保護する外装層を繰り出すステップを更に有する、

請求項 1 1 記載の方法。